

皆さんこんにちは、維新の会、楠村信二です。

第18回定例会におきまして一般質問の機会を与えて頂き、感謝します。先輩同僚議員におきましてはしばらくの間、ご清聴お願いします。市長はじめ当局の皆様には、私の意のあるところをお汲み取りいただき明快なご答弁をよろしくお願いします。

今回は「空き家除去費用補助金制度について」「乳がん検診について」「尼崎城について」3つのテーマで質問します。

まず初めに、空き家除去費用補助金制度についてです。

総務省統計局発表によると平成25年の全国の空き家数820万戸（空き家率13.5%）過去最高になっており、今後も増加が予測されています。平成27年5月には空き家対策特別措置法が全面施行され、特定空き家に指定されると、指導、勧告、命令、強制撤去が可能になり、自治体に大きな権限が与えられました。

また、平成27年度の税制改正により、空き家等対策特別措置法に基づく必要な措置の勧告の対象となった特定空き家等に係る土地については、住宅用地に係る固定資産税及び都市計画税の課税標準の特例措置の対象から除外されることになり、6分の1に軽減されていた課税標準の特例がなくなり、固定資産税が大幅に上がります。

ここで伺います。本市で今年度、空き家調査が行われましたが、本市にどれぐらい老朽危険空き家があるのでしょうか。またその中で特定空き家は何戸あるのでしょうか。

次に乳がん検診についてです。日本では年間に8万人以上が乳がんを発症し、1万3千人が死亡しています。女性がかかる癌1位になっており、女性の12人に1人がかかるとされています。乳がんは早期発見して治療すれば95%以上が治ることから早期発見が大切です。現在、全国の自治体で乳がん検診が実施されており、本市に於いても40歳以上の女性を対象に2年に1度「視触診」と「マンモグラフィ」を実施しています。

マンモグラフィは世界的にも信頼性が高い、乳がんの検診法です。しかし、最近、問題になっているのが、マンモグラフィでは見つからない癌、向いていない人がいます。(資料1をご覧ください)

乳房には4つのタイプがあり、乳腺組織の密度が薄い乳房の「脂肪性」から濃い乳房の「高濃度」があります。高濃度は密度が濃い乳腺組織により乳房全体が白く写し出され、異常が見つけにくいタイプです。日本人は欧米人に比べ、乳腺濃度が高い女性が多く、約80%

が高濃度乳腺ではないかと言われています。

ここで伺います。本市の乳がん検診受診者で「高濃度乳腺」の方の割合はどれぐらいでしょうか。

次に尼崎城についてです。尼崎城は平成30年、築城400年の年に完成します。400年前、尼崎城築城の時を思い浮かべますと、現代の市長ともいえる尼崎城主は城完成に夢膨らましていたと思います。

ここで伺います。稲村市長のお気持ちは如何でしょうか。また尼崎城に多くの人にきてもらうための仕掛けは何でしょうか。

(2回目)

(空き家)

ここで伺います。本市で今年度、空き家調査が行われましたが、本市にどれぐらい老朽危険空き家があるのでしょうか。またその中で特定空き家は何戸あるのでしょうか。

(1問目答弁)

現在、特定空き家の所有者に対して指導、勧告、命令を行っている件数はどれだけありますか。

(資料2をご覧ください)

国土交通省が空き家除去や活用に取り組む自治体を支援する「空き家再生等推進事業」等を行っています。これは国が個人に直接補助するのではなく、地方自治体が空き家除去等に補助金を出す場合、国が2分の1等を助成するものです。

現在、この制度等を活用している自治体として、姫路市（老朽危険空き家、上限 30 万円）神戸市（旧耐震、戸建て上限 128 万円）が「解体費用助成」明石市（旧耐震、定額 100 万円）が「建替え費用助成」芦屋市、豊中市が「解体後活用費用助成」を行っています。

本市においても「空き家再生等推進事業」等を活用し、空き家除去助成金制度を本市でも取り入れてはどうでしょうか。

空き家が増える要因の 1 つに、固定資産税の住宅用地特例があります。空き家を解体し、更地にした場合、この住宅用地特例がなくなり、固定資産税が 4，2 倍になるため、空き家を更地にせず、そのまま放置するケースが増えます。これを解消し、空き家解体を促進させるため、空き家を解体し、更地にした場合、5 年間、固定資産税・都市計画税 80% 減免などしている自治体があります。

本市においても空き家解体の促進のため、固定資産税等減免制度を作られたらどうでしょうか。

国交省の「空き家再生等推進事業」は個人所有者だけではなく、自治体の公共施設の解体費用の助成も行っています。南の口公園プール解体に活用されてはどうか。

地方公共団体が住民から空き家の登録を募り、空き家の利用を希望する人に物件情報を提供する制度の空き家バンクを本市で行ってはどうか。

老朽危険空き家は倒壊や放火などの防災面、空き家への不審者の侵入など防犯面、ごみ放置や動物の糞尿などの異臭、害虫の発生などの衛生面、危険空き家があることによる周辺住宅の良好な景観を害し、空き家が放置されることによる地域活性化への阻害となるなど、多くの問題をかかえており、早急に取り組む必要があります。

(乳がん)

ここで伺います。本市の乳がん検診受診者で「高濃度乳腺」の方の割合はどれぐらいでしょうか。

(1 問目答弁)

アメリカでは高濃度乳腺とわかった場合、本人に乳腺濃度についての情報を伝えることや超音波検査を勧めることが、全米の半数近くの州の法律で義務付けされています。

読売新聞社の調査で全国の政令市、県庁所在地など主要 131 自治体に乳がん検診の実態について調査したところ、回答の 7 割が高濃度乳腺について受診者に注意を促す仕組みがないと答えました。

(資料 3 をご覧下さい) 本市では乳がん実施医療機関に対して実施要領で乳がん検診の結果について指示していますが、コメント欄にわかりやすく説明はしていません。(資料 4、5 をご覧下さい)

姫路市等では健診結果をわかりやすくコメント欄で説明しています。「あなたの乳腺は量が多く、マンモグラフィーでは乳腺高濃度のため、しこりがあっても抽出されない場合があります。念のために超

音波検査の受診をお勧めします」

また、所沢市ではコメント欄に「高濃度乳腺のため、超音波検査を受けて下さい」と記載している受診者の8～9割の方が問い合わせ電話をしてくるそうです。

乳がん検診の結果通知で、マンモグラフィーで写りにくい高濃度乳腺などの受診者に対してはコメント欄にわかりやすく記載するなどされてはどうか。

平成27年9月、厚労省がん検診のあり方に関する検討会中間報告書では視触診について推奨しないとしている。このことについて本市の見解は如何でしょうか。

視触診について「厚労省がん検診のあり方に関する検討会」が推奨しない、実施するならマンモグラフィーと併せて実施。欧米ではマンモグラフィーと視触診を併用していない国が多い。

(視触診の問題点)

手技の十分精通していない医師が実施している。

早期発見の観点からしこり発見をする視触診は最適でない。

国において7万人に行った大規模調査でマンモグラフィーと超音波を併用すると早期がんの発見率が1, 5倍になることが確認された。本市に於いて「高濃度乳腺」と診断された受診者に対して超音波検査の助成を行なってはどうでしょうか。

(尼崎城)

ここでお伺いします。稲村市長のお気持ちは如何でしょうか。また尼崎城に多くの人にきてもらうための仕掛けは何でしょうか。

(1 問目答弁)

6月議会で質問させてもらいました、年間の維持管理費が数千万かかるとの事でしたが、具体的な金額は出たのでしょうか。また年間の来城者数の目標は何万人でしょうか。

6月議会の質問で人集めのプロ、仕掛け人を外部から招聘することを提案させて頂きました。今議会で「地域資源活用型まちづくり推進事業費」として補正予算500万円計上して頂きましたが、どのような人が何を考えていくのでしょうか。またいつ結論が出るのでしょうか。

6月の質問で「尼崎城に入ったら江戸時代にタイムスリップさせるような仕掛けづくりをしてほしいと発言しました。答弁では「外国人観光客が尼崎城に訪れる仕掛けづくりも必要である。また体験型施設や視聴覚施設なども検討を進める」とのことでした。
これは時代劇テーマパークのようなものなのでしょうか。

400年前の尼崎城の再建というロマンあふれる計画です。地元はもちろん全国からファン獲得のためクラウドファンディングによる資金集めを行い、資金を出された方には特典として尼崎城にネームプレート設置をする企画をされてはどうでしょうか。

栃木県の日光東照宮近くに日光江戸村という「ニャンまげ」という猫がちょんまげをしているキャラがいる時代劇テーマパークがあります。ここの社長室長と先日、電話でお話しました。尼崎城のことや忍たま乱太郎の話をしていると、「昨日、尼子惣兵衛さんが尼崎から来られていました」といわれていました。現在、日光江戸村では忍たま乱太郎のイベントが行われています。

この日光江戸村は東京から電車で2時間、車で2時間半かかるほどの場所にあるにもかかわらず年間来場者数は40万人です。因みに尼崎は大阪から10分です。

このような時代劇テーマパーク運営会社ならソフト面からハード面までノウハウを持っていると思います。

市が直営で尼崎城の運営を行うのではなく、魚つり公園のように指定管理者に運営をまかせてはどうかと思います。尼崎城の運営について指定管理者制度を導入されてはどうでしょうか。

(最後に)

最後になりましたが、今回3つのテーマについて取り上げました。まず、空き家についてですが、空き家をそのままにすることに1ミリもメリットはありません。今回、補助金や固定資産税の減免、空き家バンクについて発言しましたが、本市はいろいろな方策を使い、早急に空き家を減らすことが尼崎市の活性化につながると思います。

次に乳がん検診についてです。最近では芸能人が乳がんになり話題に上がるほど、女性の乳がんは社会現象になっています。本市においても現在の検診について検証が必要な時期になっているのではないのでしょうか。

マンモグラフィーが万能ではないことを多くの女性は知りません。しっかりと伝える必要があります。国でも超音波導入は検討されていますが、まだ数年後になると思います。

この間、受診者には、まず自分の乳房のタイプを知ってほしいと思います。

本市に於いては、正しい情報提供の方法を早急に導入して頂きたいと思います。

次に尼崎城についてです。

尼崎城築城から400年後に完成する尼崎城ですが、400年前にこの城を築く時に関与した人達、現代でいう役人は全身全霊を傾け、城づくりを行ったと思います。時代は変わりましたが、市長はじめ当局の皆様には全力で城づくりを行って頂きたいと要望しまして私のすべての質問を終わります。ありがとうございました。